

景況レポート

(1月分・情報連絡員80名)

業界全体の景況感が3ヶ月連続で後退

【概況(全体)】

1月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが10.0%(前回調査16.3%)、「悪化」が36.3%(同35.0%)で、業界全体のDI値は-26.3となり、前月調査と比較して7.6ポイント下回り、景況感は3ヶ月連続で後退し、平成27年4月以降で最低の水準となった。

また、全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の製造業のDI値は依然として上回っているが、新規受注の低迷等により前月比では大幅に落ち込んだ。また、非製造業も前月同様、暖冬による季節需要の減退等により低調に推移した。

【業界別の状況】

運輸業(トラック)では、前月に引き続き比較的好調な業況を維持した一方、食料品や鉄鋼・金属、サービス業、建設業などは前月に比べ景況感が後退した。特に、鉄鋼・金属はこれまで好調な受注状況であったが、ここに来て新規受注の確保に苦慮している。また、小売業や商店街では、前月に引き続き暖冬により冬物衣料を中心に季節商品の販売が低迷した。

なお、公共工事発注や住宅着工をはじめとする需要の低迷に加え、潜在的な人材不足など課題が山積しており、今後の業況の動向については、引き続き慎重に見極めていく必要がある。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DIとの比較>

	秋田県	全国	東北・北海道
全体	-26.3	-28.7	-24.1
製造業	-18.8	-30.2	-25.7
非製造業	-31.3	-27.6	-23.1

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製造業						
非製造業						

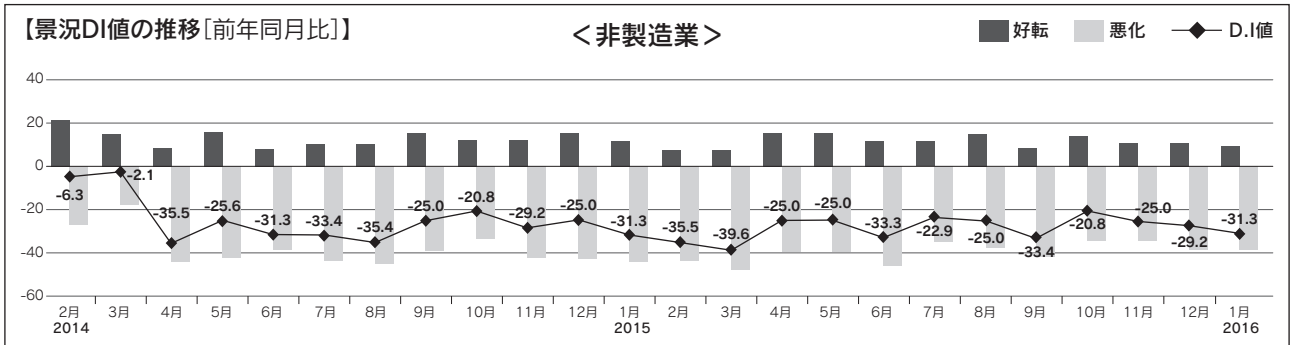
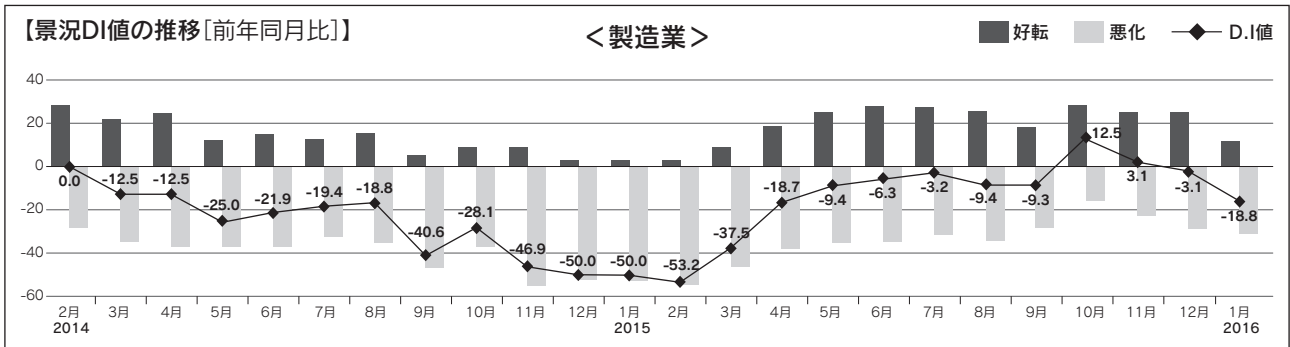
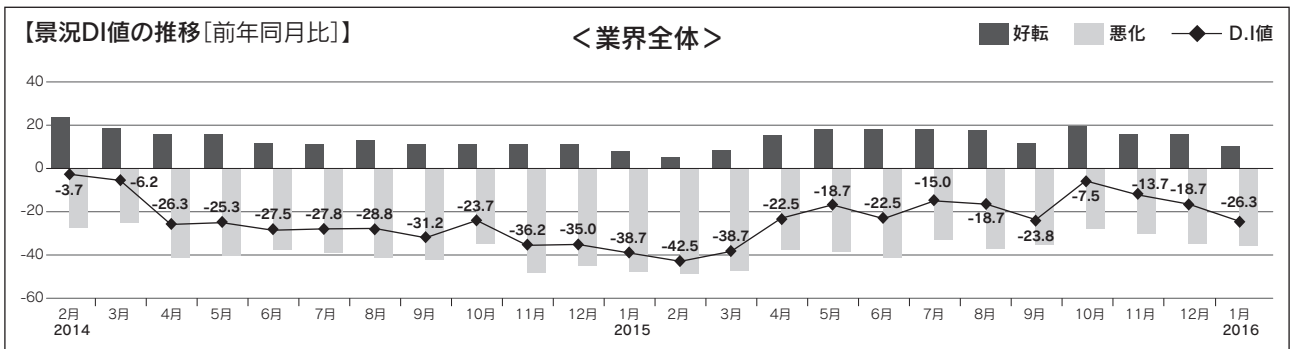
【凡例】
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 曇り △10以上 △30超 10未満 △10未満
 雨 △30以下
 雷雨
 【天気図の見方】
 前年同月のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (製麺)	消費者の購買意欲の低下もあり、業績が低迷している企業が多い。また、大手企業が低価格商品を投入しており、県内企業は対応に苦慮している。
繊維工業 (ニット)	メイドインジャパンプーム等により国内生産回帰の動きが生じているため、組合員企業はいずれも3月から4月初旬の仕事を確認しており、フル稼働している。但し、暖冬の影響によりアパレル各社の店頭売上が不調なため、好調な受注状況がいつまで続くのか不安である。
繊維工業 (繊維製品)	暖冬の影響による在庫調整により、厳冬期用衣料などの発注数は減少傾向となっている。(中央地区)
木材・木製品 (プレカット)	1月の受注は、前年同月並みで推移した。なお、通期の加工坪数は前年を若干下回っているが、木材の販売等により業績はほぼ前年並みを維持できている。なお、2月は住宅関連需要が少ない時期のため、受注は低調に推移する見通しである。
木材・木製品 (家具建具)	秋田市新庁舎関連の受注があったため、1月から4月末までは、最近の低迷を払拭できる売上が見込まれる。但し、その後は反動減が予想され、受注確保が課題となってくる見通しである。
印刷	業況は、前年同月比で悪化している。依然として需要の低迷が続いているほか、低価格受注も改善されていない。(中央地区)
窯業・土石製品 (生コンクリート)	1月の出荷数量は、前年同月比66.7%、4月～1月の累計では前年比83.5%で推移した。今年度のお荷数量は650千㎡(前年比83.8%)前後と組合設立以来最少となる見通しであり、平成28年度は、今年度を更に下回る厳しい状況が予想される。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	1月は、見積依頼物件が極端に減少し、受注残が2月分までとなっている企業が多い。なお、新規の受注については企業によりバラツキが出てきており、今後の受注確保に不安を感じている。
一般機器 (金属加工)	1月の売上は、前年同月比ほぼ横這いで推移した。依然として短納期で利幅の小さい仕事が多いため、収益面では厳しい状況が続いている
その他の製造業 (曲げわっぱ)	業況は、総じて前年同月並みで推移した。なお、弁当箱は相変わらず人気があり、好調な販売が続いている。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

- | | |
|--------------------|--|
| 卸売業
(青果) | 1月の売上は、前年同月比97%で推移した。昨年12月から今年1月中旬までの暖冬により野菜が大量に出荷されたため、価格が大幅に下落した。なお、1月下旬は西日本や北陸、関東地方での大雪によりキャベツ以外のほとんどの野菜が品薄となり、平年よりも2～3割程度高値となった。 |
| 小売業
(ポイントカード) | ガソリンや灯油が安値安定しているが、冬物の販売は不振であった。なお、組合員で高齢化による廃業が1件あった。(横手市) |
| 商店街 | 家電小売は前年同月比で売上が増加したが、酒類小売は日本酒の売上が低迷するなど、全体としては前年同月並みで推移した。(秋田市)
少雪のため、冬物関連商品は相変わらず低調に推移した。(大館市) |
| サービス業
(旅行) | 1月の売上は、国内旅行は前年同月比86.0%、海外旅行は同101.7%と予想に反して国内旅行が低迷した。2～4月の受注も低調に推移しており、先行き不透明な状況にある。 |
| サービス業
(タクシー) | 速報値では、前年同月比で運行回数が94.6%、運送収入が92.4%であり、1月後半の天候不順により若干の需要はあったが、全体としては回復に至っていない。 |
| 建設業
(一般建築) | 民間工事ではアベノミクスの効果が感じられず、官庁工事の発注も低調に推移したため、業況は前年同月比で悪化した。今後、国・県等の発注に期待している。 |
| 建設業
(電気工事) | 公共工事、民間工事ともに低調に推移しており、新築工事件数も減少傾向にある。なお、後継者育成や人材不足が深刻な課題となっている。(大仙市) |
| 運輸業
(トラック) | 会社によってバラツキはあるが、輸送量は全体として前年同月並みで推移した。なお、燃料価格が前年に比べて安値で推移しており、収益は好転している。(中央地区) |
| その他の非製造業
(砂利採取) | 前年同月比で業況に大きな変化はないが、降雪期を迎え工事に遅れが生じており、骨材の荷動きが鈍い状況となっている。(県南地区) |